



# 共創で事業領域さらに拡大

2024年は、「業績面において、建設分野は原油の高騰や為替の影響を受けたものの、価格転嫁が利益につながった。製造販売分野は売上高、利益ともに落ち込んだ」と話す。他方、共創事業は順調に推移しており、「さらに領域を広げて他社と協業する」構えだ。実際、間伐材を使ったリサイクル木質成型舗装ブロック「木煉（もくれん）」

を製造するリソースフォレスト、管工事を展開する伊藤建設工業を子会社化した。

業とPPP/PFI事業にも注力する。地域密着型の舗装会社の買収も考慮するなど、「建設事業はM&A（企業の合併・買収）を検討する」とし、「そのための投資体制の構築も考える」という。

PP/PFI事業に取り組みと設計業務が増えるように、業種を増やして社員が活躍できるフィールドを広げる。将来的にはスペシャリストとしてスキルアップできれば」と見据える。

25年は、コンプライアンスの順守、品質確保を徹底しつつ、官民ともに需要が堅調な建設分野に軸足を置く。製造販売分野はリサイクル事業に注力し、再生材の用途拡大やリサイクル率の伸長を目指す。ただ、再生材の原料となる廃材は都市部で飽

和する一方、地方では不足している。「物流体制が整えば、適正価格で取り引きしながらリサイクル事業を展開できるのではないか」とし、再生材の設計単価について発注者と協議する必要性を説く。

ベンチャー企業と協力した事業の拡大も念頭に置き、「例えば、環境配慮型アスファルト舗装『バイオ炭アスコン』は、バ

ンチャー企業と協力した事業の拡大も念頭に置き、「例えば、環境配慮型アスファルト舗装『バイオ炭アスコン』は、バ

ンチャー企業と協力した事業の拡大も念頭に置き、「例えば、環境配慮型アスファルト舗装『バイオ炭アスコン』は、バ

ンチャー企業と協力した事業の拡大も念頭に置き、「例えば、環境配慮型アスファルト舗装『バイオ炭アスコン』は、バ

ンチャー企業と協力した事業の拡大も念頭に置き、「例えば、環境配慮型アスファルト舗装『バイオ炭アスコン』は、バ

ンチャー企業と協力した事業の拡大も念頭に置き、「例えば、環境配慮型アスファルト舗装『バイオ炭アスコン』は、バ

ンチャー企業と協力した事業の拡大も念頭に置き、「例えば、環境配慮型アスファルト舗装『バイオ炭アスコン』は、バ

ンチャー企業と協力した事業の拡大も念頭に置き、「例えば、環境配慮型アスファルト舗装『バイオ炭アスコン』は、バ

